

# 29G-pm15

実務実習事前学習における4分野の実習（【医薬品管理】【TDM】【製剤】【疑義照会、調剤、服薬指導】）の満足度比較

○小竹 武<sup>1</sup>, 井上 知美<sup>1</sup>, 坂本 紀夫<sup>1</sup>, 三嶋 勝彦<sup>1</sup>, 坂野 千賀<sup>1</sup>, 大里 恭章<sup>1</sup>, 安部 由香<sup>1</sup>, 下浦 達明<sup>1</sup>, 磯脇 雄一<sup>1</sup>, 渡邊 幸子<sup>1</sup>, 高田 充隆<sup>1</sup>(<sup>1</sup>近畿大薬)

【目的】平成22年度となり、病院・薬局実務実習に必要な基本的知識、技能、態度を身につけるための実務実習事前学習は2年目の実施となった。薬学共用試験の実施に対し、4年次生は1年目よりさらに過剰な反応を示し、OSCE合格重視の意識によって低下することが危惧される。そこで、今回、実施した実務実習事前学習の4分野の満足度の比較解析と実務実習事前学習のあり方を検討した。

【方法】近畿大学薬学部4年次後期に医療薬剤学分野教授が統括し、非常勤講師(指導薬剤師)1日4名、1グループ学生6名で実施した【医薬品管理】【TDM】【製剤】【疑義照会、調剤、服薬指導】の4分野の実習の満足度を学生に成績には反映しないことを伝え、記名アンケートで5段階測定した。有効回答139名の各実習の満足度を比較し、OSCEに関連のある分野の実習(OSCE-T)とOSCEに関連のない分野の実習(noOSCE-T)の満足度の違いおよび各実習における満足に至らない問題点の抽出を試みた。

【結果】全体的に指導薬剤師介入の満足度は高かったが、総括満足度はnoOSCE-T(3.96)がOSCE-T(4.28)を有意に下回った( $P < 0.001$ )。比較的興味を持って取り組んでいたと思われる製剤実習(4.06)でもOSCE-T(4.29)の満足度を下回った。noOSCE-Tでは座学の時間が多い(医薬品管理)、難解(TDM)、実習人数が多く経験できる作業が少ない(製剤)などが満足度を低下させた理由として挙げられた。

【考察】4年次生は薬学共用試験に対する意識が強く、後期に実施する実務実習事前学習ではnoOSCE-Tは臨床に重要であると理解しているにもかかわらず、OSCE-Tの充実した実施を望む意見が認められた。今後、各実習の不満を解消する実習スケジュールの構築あるいは可能であれば実習実施時期の検討が課題と考えられる。